

問「有兵守関、不得入」のときの項羽の気持ちはどうであつたか。
答入関を妨害するのが沛公の兵とわかつたであろうから、大いに怒つたにちがいない。

脚問二つの「項羽大怒」の内容は、それぞれどのようなことか。

答函谷関に兵がいて入関を妨げたことに対して怒つていたところに「沛公已破咸陽」という知らせを聞いて「大怒」した。さらに「沛公欲王関中……珍宝尽有之」という情報を聞いて「大怒」したのであるが、その怒りは、入関を妨害されたときのものから、しだいに高まっている。そしてまた「項羽大怒」という同じ表現の繰り返しは、怒りっぽい項羽の性格、とくに、ブライドを傷つけられたときに激怒する性格であることを強調している。

問「沛公左司馬曹無傷」のつた行動の意図は何か。

答沛公の軍が項羽の軍に撃破されることを予測して、沛公が敗れた後は項羽に重く用いられようとした。

問「沛公欲王関中」と「使子嬰為相」にはどのような関連性があるか。

答子嬰は関中の様子がよくわかつていたので、それを利用することができる。

(抜い方 項羽はそのように考えて怒りを大きくしたであろうが、これは事実ではなかつた。)

問范増は沛公を撃つ理由として何をあげているか、まとめよ。

答1 「其志不在小」――天下を取る大志を持っている。

2 「此天子気也」――天子となる資格を有している。いずれも項羽に沛公を片づける決心をさせるような内容である。

(抜い方 范増の言葉から、項羽に天下を取らせるためには、ここでも沛公を殺しておきたいという気持ちを読み取っておくことが大切。次の「劍の舞」における范増の行動と関係してくる。)

脚問「急撃、勿失。」とは、どのような意味か。

答「急ぎ撃て、取り逃がすな。」の意。

(抜い方 「急いで撃つたために取り逃がしてはならない。」という意味ではないことに注意する。訓読した場合に意味の取り違えをすることがある。)

問「不自意」とは何を思わなかつたのか。

答「能先入関破秦」と「得復見將軍於此」の二つのこと。

問沛公は「不自意」と言うが、本気でそう思っていたのか。

答おそらくそうではなく、ここは謙遜の言葉であろう。

問 「小人」とは誰をさすか。
答 曹無傷。

問 「此沛公左司馬……」の「此」は何をさすか。
答 「小人之言」

問 「此」の指示するものは何か。
答 項羽が沛公を撃とうとしたこと。

問 項王の言から、項王のどのような性格がうかがえるか。
答 密告者の名を簡単に明らかにするなど、人の言葉をすぐ信用してしまう単純な性格。

問 「数目」する范増の意図は何か。
答 沛公を殺すように催促している。

脚問 「黙然不応。」の項王の気持ちはどのようなものか。
答 沛公の気持ちはわかったので、殺すには及ばないという気持ち。

(扱ひ方 決断できないで迷っていたのか、それとも、すでに心は決まっていたに依りなかつたのか、両面について考えてみなければならぬが、前段での沛公に対する言葉・態度などから後者と考える。)

問 「范増起、出召項莊」のときの范増の気持ちを説明せよ。
答 このままでは沛公をとり逃がしてしまいそうなので、何とか手を打たなければならないと焦る気持ち。

問 項伯はなぜ「常以身翼呷沛公」するのか、説明せよ。
答 恩人である張良に対する恩義と、前夜の沛公の丁重な態度に感じていたためであろう。

問 張良はどんな気持ちで宴席から出て、「至軍門」(11行) ったと考えられるか。
答 このままでは沛公が危ない、なんとかしなければ、という気持ち。

問 「今日之事何如」と聞く樊噲はどのような状態であったと考えられるか。
答 中に入れてもらえず、事のなりゆきを心配していらいらしながら待っていた状態。

脚問 「甚急。」「此迫矣。」という短文の表現は、どのような効果をあげているか。
答 事態が一刻の猶予も許されない状態にあることを示す効果。

問 「入与之同命」の「之」は何をさすか。
答 沛公。

問「西嚮立」った樊噲の正面には誰がいるか。

答項羽。項伯は項荘といっしょに舞っているから、その席にはいない。

問「頭髮上指、目眦尽裂。」「按劍而跽」はどのようなことを表現しているか。

答前者は、主人の沛公が殺されそうになり、怒り狂っている樊噲の様子を、後者は、項羽が、とびこんできた男に対してとつきに身構えた様子を表現している。

問張良は、どう思っ二人の間に入ったのか、説明せよ。

答そのままにしておく二人は切り合いを始めるかもしれない。そうなったら、沛公はもちろん、みんな生きては帰れないことになる。

問「斗卮酒」を飲み、「生彘肩」を食べる樊噲の気持ちを説明せよ。

答項羽に対して一歩もひけをとるまい、さらには、項羽を圧倒してやろう、という気持ち。

脚問「覆其盾於地、…切而啗之。」の表現は、どのような効果をあげているか。

答項羽に対する示威行為の一端としての、樊噲の荒々しい動作が効果的に示されている。

問「樊噲曰、」はどのような内容か。

答噲の言葉の内容をまとめると、

○秦王との約束

○咸陽での沛公の行動

○それに対する項羽の処置。それへの批判

ということになるが、噲はそれを、それまでの荒々しい動作とは対照的に、思慮深く、しかも格調高く述べている。

脚問「細説」とは、どのような内容か。

答沛公の左司馬曹無傷の言葉をさす。

問何を「不取」なのか。

答項羽の、沛公に対する処置。やり方。

脚問「未有以応。」の項王の気持ちはどのようなものか。

答樊噲にやり込められて困ったという気持ち。樊噲の、筋の通った批判に対して、反論すべき何ものも持ちあわせていない、思いつかぬ状態。

問「囚」の意味を説明せよ。

答のついでに。沛公の真意は、樊噲を連れてこの席をはずすことにあった。

問 項王が陳平に「沛公を召さし」めたのはなぜか。
答 廁からの帰りがあまりに遅いため。

問 「為之奈何」という言葉には、沛公のどのような性格が表現されているか。
答 独断的でなく、広く部下の意見を謙虚に聞く性格。

問 「大行…、大礼…」という言葉は、何を言おうとしたものか。
答 「天下を取ろうとしているあなたは、帰りのあいさつなど気にしなくてよい。」ということ。

問 「人」は誰をさすか。
答 項羽方をさす。

脚問 「刀俎」「魚肉」は、何の比喻か。

答 刀俎＝殺す者。害を加える者。（料理するもの。）魚肉＝殺される者。害を加えられる者。（料理されるもの。）

問 「於是遂去」の意味を述べよ。

答 そこで、そのまま去った、の意。

問 「謹諾」と言った張良の心中を推察せよ。

答 沛公を脱出させたために、項羽や范増の怒りを買ひ、殺されるかもしれないという思いはあったろう。しかし、項伯がいるからなんとかなるのではないか、という気持ちもあったろう。

問 沛公が張良に「度我至軍中、公乃入」と言った理由を説明せよ。

答 もし項羽方が自分の脱出に気づいたら、追跡してくるだろうと心配したから。

問 「公乃入」の「乃」の意味を答えよ。

答 そこではじめて。

問 沛公が「至軍中」るまで、時間はどれくらいかかったと考えられるか。

答 時速三〇キロメートルとして、十六分。

問 「大將軍」は誰をさすか。

答 亜父范増。（「大王」は項羽。）

問 「沛公安在」と問う項羽の意図を説明せよ。

答 単純に沛公がどこに行ったかをきく意図。沛公の脱出は全く予想していない。

問 「督過之」の「之」は何をさすか。

答 沛公。

脚問「項王則受壁……撞而破之」における項王と范増の気持ちは、それぞれどのようなものか。

答項王は事の重大さに気づいておらず、亜父は絶好のチャンスを逸したことを怒っている。

問「豎子」とは誰をさすか。

答項羽。

問「吾属」とは、どの人たちのことか。

答狭く考えれば范増の身内のことになるが、広くみれば、我々の仲間、つまり項羽側のこともとれる。

問「今為之虜矣」の「之」は、何をさすか。

答沛公。